

10. おうとう

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	I Cボルドー66D	散布	-	-	
3	アンピルフロアブル	散布	収穫7日前まで	1回	
3	インダーフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
3	オーシャイン水和剤	散布	収穫7日前まで	5回以内	
M4	オーソサイド水和剤80	散布	収穫3日前まで	5回以内	
2	スマレックス水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
1	トップジンM水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
17	パスワード顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	2回以内	
2	(イプロジオン)	散布	収穫前日まで	3回以内	
	ロブラール水和剤				
	ロブラール500アクア				

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオンフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
16	アブロードフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	
1	ガットキラー乳剤	樹幹部及び主枝に散布	休眠期（落葉後～萌芽前）	1回	
20	カネマイトフロアブル	散布	収穫7日前まで	1回	
1	サイアノックス水和剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
3	スカウトフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
1	スミチオン乳剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
1	ダイアジノン水和剤34	散布	収穫14日前まで	2回以内	
-	(マシン油)	散布	発芽前	-	
	トモノールS				
	ハーベストオイル	散布	発芽前	-	
10	バロックフロアブル	散布	収穫14日前まで	1回	
21	ピラニカ水和剤	散布	収穫30日前まで	1回	
20	マイトコーネフロアブル	散布	収穫14日前まで	1回	
UN	石灰硫黄合剤	散布	発芽前	-	落葉果樹

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
-	スカシバコンL	デイスンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する。	成虫発生初期～終期	-	果樹類

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

品種や気象条件により収穫時期が異なるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。
農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

時期	散布薬剤と薬量（水 100ℓ当り）	発生病害虫名 〔 太字防除 重要病害虫 〕	注 意 事 項
休眠期			<ol style="list-style-type: none"> 胴枯病の予防には主幹部の防寒のためワラ巻きをする。また日やけ防止のためワラで覆ったり、枝の配置によって日陰ができるようにする。 胴枯病の枯死樹、枝は切り取って園外へ除去する。 コスカシバの発生園では、ガットキラー乳剤 100 倍液を樹幹部及び主枝に散布する。ただし、石灰硫黄合剤と混用しない。
発芽前	水 (90 ℓ) 石灰硫黄合剤 10 ℓ	胴 枯 病 カイガラムシ類	<ol style="list-style-type: none"> カイガラムシ類が特に多い時は、マシン油乳剤 50 倍液を散布する。なお、マシン油乳剤は、商品ごとに登録内容を確認すること。
開花直前	殺 菌 剤 〔ロブラール水和剤 66 g〕 〔パスワード顆粒水和剤 100 g〕 〔スミレックス水和剤 66 g〕 のいずれか	灰 星 病	<ol style="list-style-type: none"> 前年灰星病の多かった園では必ず散布する。 〔参考農薬〕 コスカシバ防除の交信かく乱剤スカシバコンLは、4月下旬が設置適期である。10a 当たり 50 本を目どおりの高さの枝に巻きつける（ももの別表－4 参照）。
5 月 中 ・ 下 旬 （落花後）	殺 虫 剤 〔サイアノックス水和剤 100 g〕 〔ダイアジノン水和剤 34 100 g〕 のいずれか	ケ ム シ 類 カイガラムシ類 ナシグンバイ コスカシバ カメムシ類	
早生種、中生種の収穫期をむかえるので薬剤の使用時期（収穫前日数）に留意し防除する。			
6 月 上 旬	灰星病防除薬剤 〔ロブラール水和剤 66 g〕 〔オーシャイン水和剤 33 g〕 〔パスワード顆粒水和剤 100 g〕 〔スミレックス水和剤 66 g〕 のいずれか	灰 星 病 褐色せん孔病 カメムシ類 アメリカシロヒトリ	<ol style="list-style-type: none"> 褐色せん孔病の発生園では6月上旬中旬にオーソサイド水和剤 80 の 800 倍液、トップジンM水和剤 1,500 倍液のいずれかを散布する。但し、トップジンMは効果が劣る場合がある。
6 月 中 旬	灰星病防除薬剤 アンピルフロアブル 100 ml 殺 虫 剤 〔アディオンフロアブル 50 ml〕 〔スカウトフロアブル 33 ml〕 のいずれか	灰 星 病 褐色せん孔病 アブラムシ類 オウトウショウジョウバエ ハダニ類	<ol style="list-style-type: none"> アディオン、スカウトは人によってくしゃみやかぶれが出る。また、蚕毒と魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

時期	散布薬剤と薬量（水 1000l 当り）	発生病害虫名 〔 太字 は除外 重要病害虫〕	注 意 事 項
6 月 下 旬	殺菌剤 〔インダーフロアブル 20 ml〕 〔ロブラール 500 アクア 66 ml〕 のいずれか 殺虫剤 〔アディオンフロアブル 50 ml〕 〔スカウトフロアブル 33 ml〕 のいずれか	灰 星 病 褐色せん孔病 アブラムシ類 オウトウショウジョウバエ ハダニ類	1. アディオン、スカウトは人によってくしゃみやかぶれが出る。また、蚕毒と魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
<p>農薬の使用回数の注意 使用回数は、収穫後から翌年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。</p>			
7 月 中 ・ 下 旬 〔 収穫後 〕	殺ダニ剤 〔カネマイトフロアブル 66 ml〕 〔バロックフロアブル 50 ml〕 〔ピラニカ水和剤 100 g〕 〔マイトコーネフロアブル 100 ml〕 のいずれか	褐色せん孔病 ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	1. 褐色せん孔病発生園では、IC ボルドー66Dの 40 倍液を収穫以降散布する。 2. ウメシロカイガラムシの寄生が多い園では第 2 世代のふ化幼虫出現期に当たるこの時期にアプロードフロアブル 1,000 倍液を散布する。 3. バロックは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
9 月 中 ・ 下 旬	殺虫剤 スミチオン乳剤 100 ml	ナシグンバイ コスカシバ	

(注) 1. 灰星病の薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤の連用を避ける。なおロブラール、ロブラール 500 アクア及びスミレックスはジカルボキシイミド系（FRACコード2）、アンピル、インダー、オーシャインはDMI剤（FRACコード3）である。

【総括注意】

- サイアノックス、スミチオン、ダイアジノンには蚕毒が強いので注意する。
- オーソサイド、ボルドー（硫酸銅）、ピラニカは魚毒が強いので注意する。